

教育委員会だより

今年度、大豊町に赴任された先生をご紹介します。

校長：岡村 洋一郎 おかむら よういちろう

この度の異動で、高知県教育センターから大豊町立大豊町中学校長として赴任してまいりました。大豊町の目指す「かしこく、やさしく、たくましく」を基本に、保小中の連携をより密にしながら、中学校の学校教育目標である「創造性豊かに生きる力をもった生徒を育てる」を実現できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

教諭：難波 賢太 なんば けんた

今年度から、大豊町中学校で勤務することになりました難波賢太です。

理科と技術を担当します。自然豊かな大豊町中学校で生徒とともに成長していきたいと考えています。初めてのことばかりで不安な事も多々ありますが精一杯頑張りますので何卒よろしくお願いいたします。

講師：三宮 季里 さんのみや きり

国語を担当します三宮です。自然に恵まれ、見どころたくさん、おいしいものいっぱい、穏やかで優しい人ばかりの大豊に大崎先生の代理として三度目の勤務となりました。たくさんのお見舞いお待ちしております。短い間ですが、よろしくお願いいたします。

教頭：小海 将和 こうみ まさかず

この春の異動で、高知市立長浜小学校から赴任してまいりました。子どもが小学生のころゆとりとパークによくキャンプに来ていたので、なんだか懐かしい気持ちになりました。

これからは、微力ではありますが、大豊町の子どもたちが自分の夢や目標に向かって、いきいきと活動できるよう精いっぱい頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

教諭：大井 理志 おおい さとし

この度、新規採用されました大井理志です。大豊町の元気いっぱいな子どもたちと共に成長していきたいと思っています。自然豊かな大豊町の魅力を学んでいきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

教諭：岸 恵実 きし めぐみ

今年度から新規採用になりました。私は徳島県出身で、高知県に行く際よく大豊町を通っていました。自然がたくさんあって綺麗なところだなと感じており、高知県で採用になったとき、大豊町の小学校だいいなと思っていました。おおとよ小学校に赴任でき、とても幸せです。これから精いっぱいがんばりますので、よろしくお願いいたします。

教諭：前田 哲志 まえだ たかし

この度の異動により大川小中学校から赴任してきました。大豊町の中学校に勤務するのは初めてなので、たくさんのお話を学び、早く学校や地域に溶け込めるよう頑張っていきたいと思っています。お世話をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。

主任：藤原 恵子 ふじはら けいこ

おおとよ小学校から大豊町中学校に異動になりました、事務職員の藤原です。引き続き大豊町で勤務できることを大変嬉しく思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

栄養教諭：岡本 香菜 おかもと かな

本山町の嶺北中学校より栄養教諭として転任してきました。給食の時間や授業で、子どもたちと一緒に勉強できることを楽しみにしています。また、給食センターでは、調理員さんとともに旬や地元食材を大切に、心をこめて安全でおいしい給食を作っていきます。よろしくお願いいたします。

教諭：松井 智恵 まつい ちえ

南国市の国府小学校より転任してきました。大豊の緑豊かな自然に癒されながら、通勤しています。これからの四季の移り変わりが、とても楽しみです。大杉のパワーをもらって、子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

教諭：東 夏輝 ひがし なつき

この度の異動で、いの町の吾北小学校から転任してきました。

豊かな自然に囲まれたおおとよ小学校で、子どもたちと過ごすことを楽しみにしています。

分からないこともありご迷惑をおかけすることもあると思いますが、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

大豊町中学校

おおとよ小学校

大豊町民防災メモ②

防災に対する各機関の考え・メッセージをご紹介します。この特集。

第2回目は、大雨に対する本町の備えである「大豊町タイムライン」において、専門的な助言をいただいているNPO法人環境防災総合政策研究機構からのメッセージです。

防災に対して

NPO法人環境防災総合政策研究機構（CEM）

村中 明

「防災」とは文字通りの災害を防ぐことであり、災害から命を守ることです。

しかし、大雨や暴風など災害につながる現象が予想されても、災害に備えて事前に防災行動をとることは容易ではありません。「まさか：」「自分は大丈夫だろう」、あるいは「できればこのまま家にとどまりたい」といった気持ちが働き、なかなか素早い行動には結びつかないものです。

一方で、気象現象は地震や火山の噴火と異なり、最近では事前の予測が可能となってきました。現象の予測を基に、安全な場所に避難さえ

すれば命は守ることができます。

最近でも、毎年のように気象災害によって多くの犠牲者が出ています。安全な場所に避難をしなかったり、避難が遅れたりしたことが人的被害につながっています。

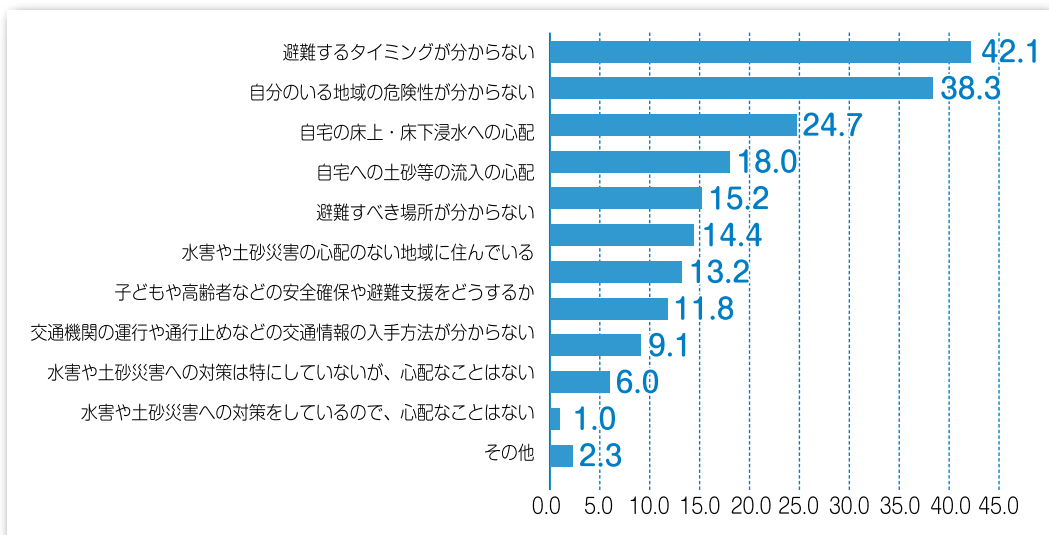
私達にとって、大雨や暴風は日常の出来事ではありません。また、それほど頻繁に経験することでもないために「いざー」という時の行動は遅れがちで、これが災害につながります。日常的な出来事ではない「いざー」という時に命を守る適切な行動をとるためには日頃からの備えが大切で、これが「リスクを知る」ことです。

下のグラフは、平成30年7月豪雨の後に被害が大きかった岡山、広島、愛媛の3つの県の住民に対して環境防災総合政策研究機構が行ったアンケート結果の一部です。「災害に直面しそうな時に、心配になることは？」との質問に対して、多かった答が「避難するタイミングが分からない」と「自分のいる地域の危険性が分からない」でした。このふたつはまさに命を守るために必須の『リスクを知る』ことです。

高知県は洪水や土砂災害に対するハザードマップを作成して周知していますが、ハザードマップだけでリスクを理解して、命が守れるわけはありません。

『リスクを知る』ことは身のまわりにあるリスク「危険」を知り、どのような時にリスクが高くなるのか、そしてリスクに備えてどのような行動を取るべきかの3つがポイントです。災害から命を守るために、この3つを基本として現

災害に直面しそうな時に、心配になることは？



象の推移に合わせて事前に最適な行動を考えたおくこと、これが「タイムライン」の基本的な考え方です。事前に早め早めの行動計画を立てておくことで「いざー」というときに躊躇なく、適切な防災行動を取ることが可能になります。